

「お念仏と平和」

田中 彰俊

今年は、戦後70年という節目の年であったせいか戦争関係の報道が多かったように感じました。ご門徒さんで8月15日の終戦記念日に、日本武道館で行われた全国戦没者追悼式に出席された方があります。

戦争では本当に多くのいのちが使い捨ての道具のごとくあつかわれたり、幼い子どもたちも多く犠牲になっていったことが伝えられます。そういう報道を見聞きするたびに、今、生かさせてもらっていることの尊さを感じます。

しかしながら、国会で安全保障関連法案が可決されました。また世界の情勢を見ると、絶えず戦争がどこかで続いています。人間の歴史というのは戦争の歴史であるかのように感じてしまいます。

どうしてこの世からは争いがなくならないのでしょうか。どうしていのちを奪いあうような戦いをしてしまうのでしょうか。多くのいのちが今も人によって殺されていることを考えると、人間の無力さと愚かさを感じます。

この世には核兵器を筆頭に、多くの兵器があります。殺すための道具を人間が作っているのです。平和を願い、戦争をしてはならないと思っているにもかかわらず兵器をつくる人間の心はどういうことなのでしょう。親鸞聖人なら何とおっしゃるでしょう。

私たちは親鸞聖人のお念仏の教えに導かれています。いつ何を仕出^しかすかわからない凡夫^{ぼんぷ}ではありますが、手を合わせるお念仏の生活をしていくことで損か得かの生き方から、少しでも何が真（まこと）かを自らに問い続ける生き方をしていきたいと思うのです。

全国戦没者追悼式に参列されたご門徒さんが、「いのちある限り参列したい」と言われました。その胸のうちにあるのは、南無阿弥陀仏の心であり、お念仏の生き方であると思います。何が真（まこと）かを問い続けておられる証^{あかし}なのだ^だと受け止めさせていただきました。